

ブラジル便り(第5回)

中南米技術協力専門家(元岡山県専門技術員) 田中文哉

ブラジルの奥地(その1)

マットグロッソのいわれ

皆さん、ブラジルにマットグロッソ州のあるのをご存じですか。ブラジルといえば、アマゾンやサンパウロ、リオデジャネイロなどの名は知っていても、マットグロッソというのは、案外知られていないと思います。

マットグロッソのマットとは、林や繁った所という意味で、グロッソとは太いとか濃い、あるいは大部分という意味です。したがって、マットグロッソとは「大部分森林のおおいかぶさっているところ」と、こんなふうな意味をもっていると解釈したらよいでしょう。昔から名は体を現わすとか、その名のとおり、ここは州の大部分が森林でおおわれているのです。

飛行機で太平洋岸のペルー、ボリビアを経てこの州に入りますと、様相は一変します。太平洋岸の諸国は赤土の半砂漠地ですが、ここはその名のとおり緑一色の地です。

森林というと、私達はターザン映画にでてくるような昼なお暗いジャングルを思い出しますが、この地方には色々の森林があります。森林の種類をならべてみますと、赤道直下にある湿度の高いところの森林を赤道林、ついで熱帯林、乾燥した地方にあるものをカンポリンポス、疎林とっています。その疎林にも、セラードといって小さい木や茨のついた木のある林や、カチンガといって小さい棘のある植物のはえた林もあります。ここマットグロッソ州の森林は、ここにならべたすべての種類のものが北部から南部にかけて広がっているのです。そしてその森林は、川や湿地に沿った標高1~2メートルのところから4,500メートルくらいのところまで連なっています。(500~700メートルくらいの山がここではもっとも高いのですが、高いところはあまり樹木がありません。)



ブラジルのどこにあるのか

世界地図の南米の部を聞いてみて下さい。南米の中で一番大きな面積を占めているのがブラジルです。さて、マットグロッソ州はブラジルのどこにあるか、捜してみましよう。ブラジルには24の州がありますが、その中でアマゾナス州についておおきなのがマットグロッソ州です。ブラジルの全体からみると、中西部に位置しているので、お隣りのゴヤス州を併せて中央西部と呼んでいます。

ブラジルの国は非常に広いので、南と北、東と西とでは、すべてに大きな違いがあります。

マットグロッソ州は、いわゆる未開の奥地で、近代文明の脚光をいまからようやく浴びようとしている西部国境に位置する大きな州です。

日本の3・3倍もある州

ブラジルの地図もう一度みていただきます。マットグロッソ州は大きな3つの川にとり囲まれたところ。北部はアマゾン川の流域で約70万平方キロ西はラプラタ川の上流パラグアイ川の流域で約35万平方キロ、東南部は同じくラプラタ川の上流の

岡山畜産便り 1965.08

パラナ川の流域で約 18 万平方キロ、合計すると約 123 万平方キロの面積をもつ大きな州です。どのくらいの大きさかくらべてみると、日本の総面積が約 37 万平方キロですから、日本の 3・3 倍に当ります。そしてブラジルの総面積の約 14・8 パーセントを占めていることになります。アマゾナス州が 155 万平方キロですからこれにつぐ、ブラジル第 2 の大きな州なのです。

年がら年中裸の暮し

マットグロッソ州の気候をみますと、州政府のあるクヤバ市の年平均気温が 25℃です。クヤバ市の月別平均気温をみると、9、10、11、12、1 月がどれも 27℃以上です。これは平均で 1 番暑いときはいつか調べてみますし、月の最高気温 41℃以上を示す月が 8、9、10、11 月で、42・2℃（10 月）が最高となっています。42℃といえばちょっと暑いですよ。もちろん熱帯だから暑いのがあたりまえかもしれません。

月平均気温で低い月をみると、6 月と 7 月がどれも 23・8℃、23・5℃で一番低い月となっています。最低の数値は 6 月 1・2℃、7 月 5・0℃となっています。10℃以下の月が 5、6、7、8 月となっておりこれはちょうど日本と反対です。

降雨量をみると、年間の総降水量は 2000 ミリとなっています。降雨量を月別にみると、この地方の特徴である乾季と雨季に分かれています。一般に気温の高い 10、11、12、1、2、3 月が雨季で、残りの半数が乾季に当るわけです。とくに雨の少ない月は 6 月と 7 月です。しかし低い月といっても平均気温が 23℃ですから、日本で考えるほど涼しくはありません。とにかく熱帯ですから、涼しいことを願う心はわかりますが、年中 23～27℃の平均気温です。ときたま極めて暑い日は 42℃を示し、極めて寒い日は 1℃を示していることもあります。1 日か 2 日です。

この州の雨季には州の真土に太陽があり、乾季になると段々と遠ざかっていきますが、大部分が熱帯圏にあるので、一年中灼熱の太陽が照り輝いています。しかし、夜になるとグット気温が低下し、雨季でも上掛けを必要とする日があります。乾季になれ

ばもちろんうすいフトンが要るくらい涼しくなります。

なれてくれば、むしろ一年中 26℃平均の暑さは、かえって生活にはつごうよくできているといえます。なぜかといえば、年中裸一貫で通せるので衣類の節約ができるというものです。子供などは暑さのお蔭で、パンツ 1 つで年がら年中を過しています。ノミは 1 匹もいません。市街地にはハエや蚊も極めて少く、とても過しよい天地です。裸の天国とはこの土地をいうのかも知れません。

どんな人々が住んでいるか

ブラジルは 1500 年頃、カブラルによって発見されました。このマットグロッソ州は 1524 年にアレイシヨ・ガルシャ他 5 名の探検隊によって発見され、この地方開発の基地を 1700 年頃クヤバに設置し、1835 年にクヤバを州の首都と定め、開発を進めてきたいということです。

インディオの国

古くからこの地には原住民族のインディオがいました。

ブラジルの開発は、本誌新年号ブラジルの開拓とファゼンダのところでいろいろのべましたが、このマットグロッソ州はこれからの開発を持っている国です。初めには広大な土地を牧場として開発したものもあり、探検隊がやって来た前後からは、ダイヤモンドや金を目当てとした採掘者や、さらに北東部の大ファゼンダから脱走した奴隷などがこの地方の勢力をもっていたインディオと離婚しつつ、開発を進めたのだといわれています。最近とくに州南部の開発がすすめられました。これは東隣のサンパウロ州やパラナ州の農業移住者がパラナ川を渡ってどんどん農業開発を進めてきたのでこの地方の農業は、今ではサンパウロ、パラナ両州の延長だといわれるようになりました。